

# 国際学研究科

# 研究指導概要

## 博士前期課程

### 1. 各セメスタの指導内容

学生は、指導教員と密接に連絡をとりながら、履修指導ならびに研究指導を受けなければならない。なお、各セメスタにおける指導内容は下記のとおりである。

#### 1セメスタ

指導教員と研究テーマを検討し決定して、それに基づいて研究計画を立案する。

履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 2セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、研究計画、研究手法等を検討・確定し、調査・研究を進める。

履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 3セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら調査等を実施し、分析を行う。学会、学内紀要等への投稿も奨励する。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 4セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、追加の調査や研究を行い、学位論文としての完成度を高め、まとめあげる。学会、学内紀要等への投稿も奨励する。

履修指導に基づき必要な授業を履修する。

### 2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

春学期・秋学期ともに、全学生出席による学期中間発表会と期末発表会を行う。全学生が研究計画及び進捗状況の報告を必須とする。とくに博士前期課程においては、発表会での成果が「国際地域学特殊研究」の成績評価に大きく反映される。詳細は、適宜専攻から配布される資料等を参考にすること。

### 3. 特定課題研究論文

社会人学生に対しては、修士学位論文に代えて特定課題研究論文の提出を認めている。特定課題研究論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文であり、下記の3つの要件を予め満たしている必要がある。

- ① 学会における口頭発表論文が1本以上あること。
- ② 専門誌などにおける論文発表が1本以上あること。
- ③ 授業科目等について32単位以上取得していること。

※①②については本人の貢献箇所について提出時に明らかにすること。

なお、特定課題研究論文を選択する学生は、最終セメスタ時に指導教員の了承を得た上で申告しなければならない。

実践的に調査・研究した特定課題研究論文の審査基準は、修士論文に準じる。

## 博士後期課程

### 1. 各セメスタの指導内容

学生は指導教員と密接に連絡をとりながら、履修指導ならびに研究指導を受けなければならない。なお、各セメスタにおける指導内容は以下のとおりである。

#### 1 セメスタ

指導教員と研究テーマを検討し決定して、それに基づいて必要な調査、研究手法、研究計画を立案する。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 2 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、研究計画、研究手法等を検討・確定し、学会、学内紀要等への投稿を見据えて、その締め切りスケジュールも考慮して、調査・研究を進める。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 3 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、研究計画、研究手法等を検討・確定し、学会、学内紀要等への投稿を見据えて、その締め切りスケジュールも考慮して、調査・研究を進める。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 4 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら調査等を実施し、データ分析や取りまとめを行う。併せて、修了要件を満たすよう学内外への論文投稿を積極的に行う。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 5 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら調査等を実施し、引き続きデータ分析や取りまとめを行う。併せて、学内外への論文投稿を積極的に行う。博士論文の執筆を開始する。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 6 セメスタ

分析の精度を高め、論文の完成度を高め、論文を提出する。予備審査および公聴会に向けて、必要な修正を行い、さらに論文の完成度を高める。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

### 2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

春学期・秋学期ともに、全学生出席による学期中間発表会と期末発表会を行う。全学生に研究計画及び進捗状況の報告を義務づけ、研究指導のマイルストーンとするとともに、学生自身の学位論文執筆の進捗管理としても活用する。また、この発表会では指導教員以外からも研究内容に関する質疑応答が行われるため、様々な角度からの質問に答えられる能力を養うことが可能となる。加えて、学生間でもお互いの研究内容を知ることで切磋琢磨しあう。

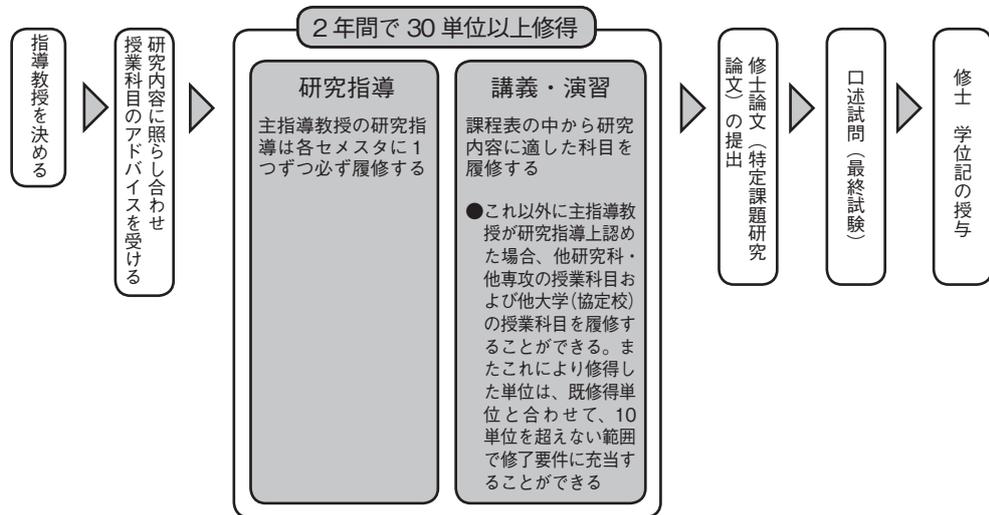
詳細は、適宜専攻から配布される資料を参考にすること。



# 国際地域学専攻

## 前期課程

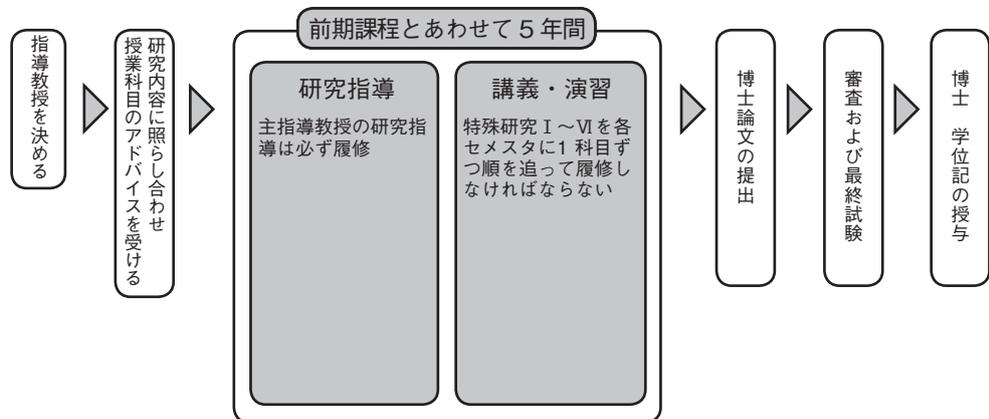
履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は2年間で32単位以上修得

## 後期課程

履修の流れ



※本専攻では、自身の研究を一層深めるために、研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

## 国際地域学専攻

### 博士前期課程

区分	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		職名	担当教員	備考
					学期	言語			
リサーチスキル科目	調査手法演習 A Practice of Social Research Methods A	演習	2	STS601	春	英	教授 荒巻俊也 Toshiya Aramaki	オムニバス形式	
					秋	日	教授 岡村敏之 Toshiyuki Okamura		
	調査手法演習 B Practice of Social Research Methods B	演習	2	STS602	春	日	教授 岡本郁子 Ikuko Okamoto	オムニバス形式	
							教授 高橋一男 Kazuo Takahashi		
					秋	英	教授 沼尾波子 Namiko Numao 准教授 中村香子 Kyoko Nakamura		
アカデミック・リーディング Academic Reading	講義	2	ITS601	春	日	教授 藪長千乃 Chino Yabunaga	オムニバス形式		
Japan Studies	講義	2	ITS602	秋	英	教授 子島進 Susumu Nejima 教授 久松佳彰 Yoshiaki Hisamatsu 准教授 中島晶子 Akiko Nakajima			
国際学分野科目	国際経済学特論 Advanced Theory of International Economics	講義	2	ECP601	秋	日	非常勤講師 坪田建明 Kenmei Tsubota	*日英隔年開講	
	国際関係学特論 Issues in International Relations	講義	2	INR601	春	英	准教授 中島晶子 Akiko Nakajima	*日英隔年開講	
	国際政治学特論 Advanced Theory of International Politics	講義	2	INR601	春	日	教授 西川吉光 Yoshimitsu Nishikawa	*日英隔年開講	
	国際教育開発特論 Advanced Theory of International Educational Development	講義	2	SOE601	春	英	教授 芦沢真五 Shingo Ashizawa		
	比較文化特論 A Comparative Cultural Studies A	講義	2	LIG601	秋	日	准教授 佐々木悠介 Yusuke Sasaki		
	比較文化特論 B Comparative Cultural Studies B	講義	2	LIG602	春	英	准教授 佐々木悠介 Yusuke Sasaki		
	ボーダーレスな社会とインターネット技術 Advanced Theory of Internet Technologies in Borderless Society	講義	2	INN601	春	英	教授 芦野俊宏 Toshihiro Ashino	*日英隔年開講	
地域開発分野科目	開発経済学特論 Advanced Theory of Development Economics	講義	2	ECP601	春	英	非常勤講師 湊一樹 Kazuki Minato	*日英隔年開講	
	開発人類学特論 Advanced Theory of Development Anthropology	講義	2	CUA601	春	日	准教授 中村香子 Kyoko Nakamura	*日英隔年開講	
	地域社会学特論 Advanced Theory of Urban and Regional sociology	講義	2	SOC601	春	日	教授 高橋一男 Kazuo Takahashi	*日英隔年開講	
	福祉社会学特論 Advanced Theory of Social Policy and Welfare Society	講義	2	SWS601	秋	英	教授 藪長千乃 Chino Yabunaga	*日英隔年開講	
	コミュニティ開発特論 Advanced Theory of Sustainable Cities and Community Development	講義	2	TPA601	春	英	教授 安相景 An Sang kyung	*日英隔年開講	
	農村・農業開発特論 Issues in Rural and Agricultural Development	講義	2	ECP603	秋	英	教授 岡本郁子 Ikuko Okamoto		
	経済地理学特論 Advanced Theory of Economic Geography	講義	2	HUG601	春	英	教授 藤本典嗣 Noritsugu Fujimoto	*日英隔年開講	
	都市地理学特論 Advanced Theory of Urban Geography	講義	2	HUG601	秋	日	教授 藤本典嗣 Noritsugu Fujimoto	*日英隔年開講	
	都市・地域計画特論 Advanced Theory of Urban and Regional Planning	講義	2	TPA602	秋	日	准教授 志摩憲寿 Nori-hisa Shima	*日英隔年開講	
	住宅政策特論 Advanced Theory of Affordable Housing Policy	講義	2	TPA603	秋	日	教授 安相景 An Sang kyung	*日英隔年開講	
	地球環境特論 Advanced Theory of Global Environmental Management	講義	2	EDA601	春	日	教授 荒巻俊也 Toshiya Aramaki	*日英隔年開講	
国際環境衛生特論 Advanced Theory of Environmental Sanitation	講義	2	CEE601	春	英	教授 北脇秀敏 Hidetoshi Kitawaki			

区分	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		職名	担当教員	備考
					学期	言語			
地域開発分野科目	水資源・水環境学特論 Advanced Theory of Water Resources and Water Environment	講義	2	HYE601	秋	英	教授	松丸 亮 Ryo Matsumaru	*日英隔年開講
	都市交通計画特論 Advanced Theory of Urban and Transport Planning and Policy	講義	2	CEP601	秋	日	教授	岡村 敏之 Toshiyuki Okamura	*日英隔年開講
	財政学特論 Public Finance	講義	2	PFP601	秋	英	教授	沼尾 波子 Namiko Numao	*日英隔年開講
	災害・危機管理特論 Advanced Theory of Disaster and Crisis Management	講義	2	NDD601	春	日	教授	松丸 亮 Ryo Matsumaru	*日英隔年開講
	空間計画特論 Advanced Theory of Spatial Planning	講義	2	TPA604	秋	英	教授	山崎 義人 Yoshito Yamazaki	*日英隔年開講
	空間計画演習 Spatial Planning Studio	演習	2	TPA605	春 日英併講		教授 准教授	山崎 義人 Yoshito Yamazaki 志摩 憲寿 Norihisa Shima	オムニバス形式
	国際地域応用学特論 Advanced Theory of Practical Regional Development	講義	2	SEM602				荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、高橋一男、志摩憲寿、中島晶子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人、中村香子、佐々木悠介	※
	国際地域応用学演習Ⅰ Seminar on Practical Regional Development I	演習	2	SEM603				荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、高橋一男、志摩憲寿、中島晶子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人、中村香子、佐々木悠介	※
	国際地域応用学演習Ⅱ Seminar on Practical Regional Development II	演習	2	SEM604					
	国際地域応用学演習Ⅲ Seminar on Practical Regional Development III	演習	2	SEM605					
国際地域応用学演習Ⅳ Seminar on Practical Regional Development IV	演習	2	SEM606						
研究指導	国際地域学特殊研究 (1～4セメスタ) Specialized Research on Regional Development Studies I - IV	演習		REG601 REG602 REG603 REG604				荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、高橋一男、志摩憲寿、中島晶子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人、中村香子、久松佳彰、佐々木悠介	
	国際地域学研究指導 (1～4セメスタ) Special Lecture on Regional Development Studies I - IV		2	REG605 REG606 REG607 REG608				[指導教員] 荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、高橋一男、志摩憲寿、中島晶子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人、中村香子、久松佳彰、佐々木悠介	

\* 日英隔年開講 日本語開講と英語開講を隔年で実施する。

※メディアを利用して行う授業科目

### 修了に必要な単位等

- 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。ただし、修士論文に代えて東洋大学大学院学則第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、修了要件となる科目で32単位以上修得すること。
- 「国際地域学研究指導」
  - ①主指導教授の「国際地域学研究指導」を8単位修得すること。
  - ②8単位以上修得した場合、修了要件としては8単位まで認められる。
  - ③1セメスタから順番に毎セメスタ履修すること。長期履修学生および原級生で5セメスタ以上在学する場合で1～4セメスタ修得済みの者は、再度4セメスタを履修すること。
  - ④再履修する場合は主指導教授および大学院教務課に相談すること。
- リサーチスキル科目  
3科目6単位以上修得すること。
- 「国際地域学特殊研究」を、修了予定直前のセメスタを含め2回以上修得すること。

### 履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
- 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位取得することができる。ただし、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づき、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
- 「国際地域応用学特論」および「国際地域応用学演習Ⅰ～Ⅳ」はJICA 海外協力隊派遣者のみ履修することができる。

## 国際地域学専攻 博士前期課程 英語による授業について

表中「言語」欄に「英」と記されている科目は英語での授業を行います。

### JICA 海外協力隊派遣期間中の履修方法について

- 派遣後最初のセメスタで国際地域応用学特論 2単位  
国際地域応用学演習Ⅰ 2単位を履修・修得する
- 派遣後2セメスタ以降は、国際地域応用学演習Ⅱ～Ⅳを順番に履修・修得する。
- 履修方法1および2での修得単位は、最初の1回目のみ 合計10単位までを修了要件として認めることができる。
- 派遣期間中、**主指導教授の「国際地域学研究指導」は、毎セメスタ必ず履修すること。**履修するセメスタは、通学期間中の履修・単位修得したものも含めて1セメスタ～4セメスタまで順番に履修すること。長期履修学生および原級生で5セメスタ以上在学する場合で1～4セメスタ修得済みの者は再度4セメスタを履修すること。修得した単位は8単位まで修了要件として認められる。
- 派遣期間を除く通学期間は、最低1年以上とする。

### 博士後期課程

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	担当教員
国際地域学特殊研究Ⅰ（1セメ） Specialized Research on Regional Development Studies I	演習	2	SEM701	荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、佐々木悠介、志摩憲寿、高橋一男、中島晶子、中村香子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人
国際地域学特殊研究Ⅱ（2セメ） Specialized Research on Regional Development Studies II	演習	2	SEM702	
国際地域学特殊研究Ⅲ（3セメ） Specialized Research on Regional Development Studies III	演習	2	SEM703	
国際地域学特殊研究Ⅳ（4セメ） Specialized Research on Regional Development Studies IV	演習	2	SEM704	
国際地域学特殊研究Ⅴ（5セメ） Specialized Research on Regional Development Studies V	演習	2	SEM705	
国際地域学特殊研究Ⅵ（6セメ） Specialized Research on Regional Development Studies VI	演習	2	SEM706	
国際地域学研究指導 Special Lecture on Regional Development Studies			REG701	〔指導教員〕 荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、志摩憲寿、高橋一男、中島晶子、中村香子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人

### 修了に必要な単位等

- 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 「国際地域学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、各セメスタに1科目ずつⅠから順を追って履修すること。

### 履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

## 国際学研究科国際地域学専攻 修士論文の提出、作成要領について

### 1. 修士論文の作成要領

- ・ A4 判、ワープロ書き、横書き、片面印刷
- ・ 表紙について
  - 論文題目の字の大きさは、16 ポイント以上、それ以外は 14 ポイント。
  - 内表紙にも、同様の記載をする。
- ・ 本文
  - 文字：10.5 ポイント
  - 字数・行数：40 字、35 行
  - 余白：上下、左右ともに 3.0cm
  - ページ：下段、中央
  - 章題、図表の説明文等に関しては、適宜フォントを変更することは可能。
- ・ 目次、参考文献（巻末）、謝辞をつける。
- ・ 英文で提出する場合は、別紙を参考にして指導教員の指示に従い執筆すること。
- ・ 上記の形式と異なる場合には、指導教員と相談し、了承を得ること。

### 2. 修士論文要旨の作成要領（見本参照）

- ・ A4 判、ワープロ書き、横書き、4 ページ
- ・ 「国際地域学専攻修士論文」、提出年月（20〇〇年〇月）、指導教員名
- ・ 論文題目：14 ポイント（英文題目も）
- ・ 所属（東洋大学大学院国際学研究科国際地域学専攻博士前期課程）
- ・ 学籍番号→10.5 ポイント、氏名（英文名も）→12 ポイント
- ・ 英文要旨（200 語程度）、英文キーワード、日本語キーワード（5 個程度）
  - キーワードは、文献検索に利用されることを考慮し、論文の内容を的確に示す語を選ぶ。
- ・ 本文
  - 文字：10.5 ポイント
  - 字数・行数：40 字、40 行
  - 余白：上下、左右ともに 3.0cm
  - ページ：下段の中央

- ・ 図や表や写真の掲載も可能
- ・ 要旨の4ページ目（最終ページ）は、最後の25行を空白にする。この空白部分に主査・副査が審査報告を記入する。

【修士論文の要旨の見本】

国際地域学専攻修士論文要旨（20〇〇年〇月提出） 指導教員：東洋太郎教授

持続可能な環境都市に向けての一考察  
ーカーボンマイナス東京10年プロジェクトー

3D20170099

白 山 花 子

A Study towards Sustainable Eco-City :  
10-Year Project for a Carbon-Minus Tokyo

SHIROYAMA Hanako

Tokyo's basic posture on climate change in the next decade ……  
(英文要旨、200語程度) ……  
(略)

Key words : sustainable city, eco-city, CO2 reduction, Tokyo, carbon-minus  
キーワード：持続可能都市、環境都市、CO2削減、東京、カーボンマイナス

〈論文構成〉  
I. 序論  
1. 従来の研究と問題点  
2. 本研究の目的と方法  
II. カーボンマイナスプロジェクト  
(略)  
IV. 結論

〈要約〉  
本研究は……  
(略)

(要旨)

---

【審査および最終試験の報告】  
本研究は、東京都のカーボンマイナスプロジェクトを事例として、持続可能な環境都市について考察し、……  
(略)

………よって、本研究は修士論文として価値あるものと認める。  
(主査：東洋太郎、副査：文京次郎)

以上